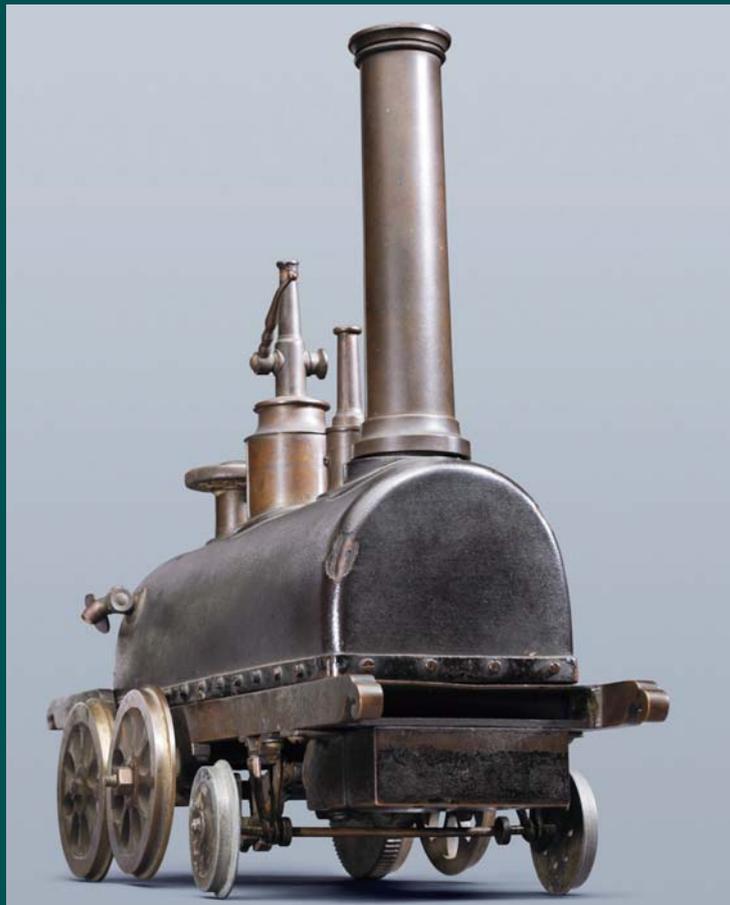




徴古館報 第36号 2018年(平成30年)7月発行



蒸気車雛形 安政2年(1855) 佐賀藩精煉方製 佐賀県重要文化財

「肥前さが幕末維新博覧会」開幕



平成30年に明治維新から150年を迎えることを記念し、平成30年3月17日(土)から平成31年1月14日(月・祝)まで、佐賀県内各地で「肥前さが幕末維新博覧会」が開催されています。市村記念体育館を会場とした「幕末維新記念館」を中心に、「リアル弘道館」(旧古賀家)や「葉隠みらい館」(旧三省銀行)など幕末・明治期の佐賀を紹介するパビリオンが設置され、周辺の博物館施設でも関連の展示が行われています。また、佐賀駅に繋がる中央大通りには郷土の偉人25人の銅像型モニュメントが設置されるなど、各所で賑わいを見せています。

徴古館 肥前さが幕末維新博覧会特別展

「幕末明治の鍋島家 一大名から侯爵へ」



肥前さが幕末維新博覧会の一環として、当館では鍋島家伝来品による上記特別展を開催しています。

幕末の10代佐賀藩主鍋島直正公は藩内の教育や財政改革、長崎港の警備などに力を注ぎ、軍事や医療などの面で必要な西洋の技術をいち早く取り入れました。世界に目を向ける一方で、佐賀藩の歴史的な成り立ちや特有の気風を「鍋島風」と呼んで極めて重視していました。11代鍋島直大公は明治前期にイギリスへの留学やイタリア公使を経験し、帰国後は明治天皇の側近として仕えました。

佐賀藩を治める大名から、皇室を支える侯爵へ。時代と立場が変わるとき、鍋島家は何を拠り所としたのでしょうか。明治維新150年を機に振り返ることで、常に変化の中で生きる私たちにとって、暮らしの手掛かりを感じ取って頂ければ幸いです。

本展では、直正公・直大公の公務面のみならず、直正公が重んじた藩祖直茂公・初代藩主勝茂公の佐賀藩成立期の歴史、直正公が長女の貢姫に宛てた自筆の手紙や御一家で代々譲られた愛用品、侯爵鍋島家で用いられた品々などを通じて、幕末・明治期における鍋島家の歴史を広くご紹介しています。(4期に分けて展示替えを行います)

■会期：平成30年3月17日(土)～平成31年1月14日(月・祝) ※年末年始のみ休館
 ■時間：9時30分～18時 ■料金：400円(高校生以下無料/維新博相互割引有り)

展示室の様子

本展会期中の常設展示

会期中は4期に分けて展示資料の入れ替えを行います。全期間を通して常に見ることができる資料もあります。佐賀藩精煉方製の蒸気車雛形(表紙)や蒸気船雛形2点(いずれも県指定重要文化財)も揃って公開。直正公も実際にその試運転の様子を目にした実動の模型です。この他、11代直大公の肖像画(百武兼行筆)、明治25年(1892)に鍋島邸西洋館の落成を機に行幸された明治天皇から直大公に下賜された記念品、また江戸時代を代表する武士道論「葉隠(山本本)」、直正公も実見しその質実剛健さを称賛した具足(初代藩主勝茂公が島原の乱で着用/県指定重要文化財)なども勢揃いしています。



県指定重要文化財の蒸気車雛形、蒸気船雛形(外輪船/スクリュー船)は期間中常時展示



栄子夫人所用のドレス(会期ごとに展示替え)

2階も展示室としてリニューアル

昭和2年(1927)の開館当初は展示室として使用されていた2階ホールですが、近年ではおもにイベントホールとして、当財団の研究助成報告会や香道体験会、「鍋島家の雛祭り」展関連の催しなどの際に使用していました。

この度、佐賀県からの委託事業として、維新博を機に展示室として整備しました。資料やパネル展示を通して、10代藩主直正公が理想とした藩祖直茂公と初代藩主勝茂公の時代、佐賀藩の成立期についてご紹介しています。

県内各校から生徒たちが来館

維新博の開幕とともに、県内各学校の児童・生徒が続々と来館しています。ほとんどが当館には初めて来館したという子供たちですが、貴重な鍋島家伝来資料の数々を熟覧し、熱心にメモを取っていました。本物の資料を通じて郷土の先人について学んだ体験が、今後郷土への理解を深めていく上での一助となれば幸いです。



2階での展示の様子



来館した生徒たちで賑わう展示室内

各期のおもな出品資料

■ 第1期(4月16日～6月15日)

安政6年(1859)に佐賀藩医の川崎道民が撮影した10代藩主鍋島直正公の肖像写真を14年ぶりに公開。日本人撮影の写真としては島津斉彬公の銀板写真に次ぐ古さです。他にも直正公の印章、自筆の書や11代直大夫人栄子様が鹿鳴館時代に着用した夜会服などを展示。



鍋島直正肖像写真(安政6年)

■ 2期(6月16日～8月24日)

最後の佐賀藩主11代直大公所用の江戸時代末期のレクシオン羽織・袴を公開。西洋の要素を取り入れた和洋折衷の軍服です。また、日赤の篤志看護婦人会 会長を永きにわたり務めた栄子夫人の看護服や制服も公開します。他にも明治天皇から直正公への蝦夷开拓督務勅書、直正公の遺品として御一家に代々譲られた煙草盆なども展示。



直大所用のレクシオン(調練)羽織・袴

■ 第3期(8月25日～11月5日)

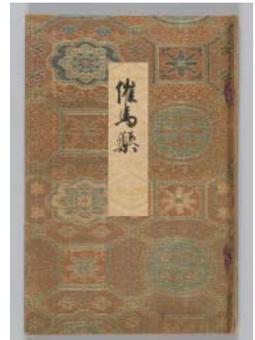
小袖の生地を、当時欧米で流行していたバスル・ドレスに仕立てた、類例のない貴重な作例。近年ではNHK大河ドラマ「花燃ゆ」で、主人公がこのドレスをモデルにした衣装を着用し話題になりました。この他、鍋島邸で使用された洋食器(有田大樽窯・平林伊平製)なども展示。



栄子夫人所用の小袖地のドレス

■ 第4期(11月6日～1月14日)

佐賀県内唯一の国宝「催馬楽譜」を10年ぶりに公開。平安中期に書写された、古代宮廷歌謡のひとつ「催馬楽」の現存最古の写本です。雅楽を掌る宮内省式部長官を務めた直大公により鍋島家にもたらされたと考えられます。また、明治20年に伊藤博文首相官邸で開催された仮装舞踏会で直大・栄子夫妻が着用した衣装も当時の写真とともに展示。



催馬楽譜(国宝)

平成30年6月16日

徴古館再開20周年

昭和2年(1927)、12代直映公により佐賀県内最初の博物館として創設された当館は、昭和20年には戦局の悪化に伴い閉館を余儀なくされました。やがて平成9年に至り建物为国登録有形文化財となり、翌年6月16日に約半世紀ぶりに博物館として再開を果たしました。さらに平成12年には、鍋島家より国宝・重要文化財を含む貴重な資料を当財団にご寄贈いただきました。お蔭様で、これまで84回の企画展を通じて、佐賀藩主・侯爵鍋島家伝来の品々を約45万人の方々にご覧いただきました。

そして、本年6月16日(土)には再開から20周年を迎えました。これを記念し、これまでの感謝の意を込めて、毎年恒例の展覧会「鍋島家の雛祭り」の関連図録『鍋島家の雛あそび』を、ご来館いただいた皆様へ進呈させていただきました。

研究助成事業

鍋島報効会では平成13年度より、郷土佐賀の研究を奨励し、その成果を地域に還元することを目的に、一般公募による研究費の助成を行っています。

【2月】 研究報告書第8号発行

第15・16回(平成27・28年度)に助成を受けた10名の研究者による研究報告書 第8号を刊行しました。ページ数は281ページ、価格は1,500円で、当会事務所のほか、お電話やメールでもご注文を受け付けています。また、過去に発行した第1号から第7号も引き続き販売中です。

【4月3日】 第18回研究助成授与式

平成30年度助成は4名の方に決定し、徴古館で授与式が執り行われました。授与者・研究テーマは以下の通りです。西留 いずみ「近世後期白石鍋島家における蘭学の展開」／瓜生 美智子「17世紀のグローバリゼーションと肥前磁器生産の技術革新とのかかわり」／吉住 磨子「イタリア時代の百武兼行研究」／中村 知裕「龍造寺氏の勢力拡大とその実態 ―五州二島論再考―」



【6月2日】 第17回研究助成報告会

今年度は維新博特別展の開催に伴い、佐賀バルーンミュージアムを会場に行いました。昨年度(平成29年度)に助成を受けた3名の方により、弥生時代～戦後期にわたる各分野の報告がありました。会場からは熱心な質問や意見が挙がり、52名の参加者からの拍手が響きました。また、各報告に対し当財団の高島忠平(理事・徴古館長)と大園隆二郎(評議員)より講評・助言がありました。今回の報告内容を含む研究報告書 第9号は、平成30年度分と合せて平成31年度に刊行予定です。



新指定重要文化財

平成30年3月、当財団所蔵の「色絵椿文輪花大皿」(色絵椿文大皿 鍋島)2枚が、初期の鍋島焼を考察する上で重要な作品として国の重要文化財に指定されました。

藩窯が岩谷川内(佐賀県有田町)に置かれていた1650年代の作で、初代藩主鍋島勝茂公の御道具として伝来。椿文の輪郭線を一方は染付、他方は色絵で描いています。前者はのちの鍋島焼(藩窯)、後者は民窯の柿右衛門様式などに受け継がれました。新指定物件として4～5月にかけて東京国立博物館で公開され、引き続き6月16日より当館で展示。指定後初のお披露目となりました。



色絵椿文輪花大皿(左は輪郭線を色絵で、右は染付で描く)

佐賀工業高校より椅子寄贈

佐賀県立佐賀工業高校より、建築科の生徒さんが部活動で制作された椅子をご寄贈いただき、5月28日に寄贈式を執り行いました。館のイメージに合わせてくださったという朱色の脚が特徴的な3人掛け用のベンチ式の椅子2脚で、中央部分には機械科の協力を得て鋳物で杏葉紋が表されています。図面を引き、座面の角の面取りや防腐剤の塗布まで熱心に取り組まれたそうです。贈呈された椅子はエントランスに設置していますので、今後多くの方にお使い頂ければと思います。



徴古館報 第36号 2018年(H30) 7月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX (0952) 23-4200 MAIL info@nabeshima.or.jp

URL <http://www.nabeshima.or.jp>